

は じ め に

埋蔵文化財の発掘調査と資料の整理・収蔵を柱に、調査成果の公開・活用を図ることを目的に当館が開館以来、昨年5月末に満3年を数え、今年6月には節目の5年目を迎えることとなりました。埋蔵文化財センターとしての重要な機能である発掘調査は、毎年20件近く実施してまいりましたが、18年度の調査実績は、17遺跡20件を数えました。

発掘調査の原因には、学校建築や道路建設、区画整理や下水道工事などの公共事業、民間の開発に伴う造成工事等、さらには個人住宅の新築、増築などがあるほか、史跡整備のための学術調査なども含まれます。

この発掘調査によって得られた出土品は、整理等を経て当館に収蔵され、あるいは展示室での公開などによって広く紹介しております。

この公開活用を行うための展示活動や普及活動も当館の大きな柱でございます。18年度の企画展は、平成18年1月の玉山村との合併を記念した「玉山の遺跡」と「黄泉への入り口～古代蝦夷首長の墓～」を開催し、多くの方々のご来場をいただきました。本企画展の合間には、17年度から始まった市内の遺跡や歴史をエリア別に紹介するテーマ展として「繫地区」と「上田地区」をとりあげ、地域の個性ある歴史を紹介いたしました。また、年度末には当該年に調査した成果を速報する「埋蔵文化財調査資料展―平成18年度調査速報―」を開催しております。

当館の利用状況は、入館者数は前年度並みの推移となっておりますが、体験学習室の利用者数は17年度の3.5倍に急増いたしました。これは、主催事業としての体験学習の場の拡充がひとつの要因でもあります。開館3年目を迎えて当館の認知度の高まりを背景に、北海道や宮城県などからの修学旅行生が急激に増加したことが挙げられます。市内の教育課程における利用の促進とともに、広く県内外からの受け入れのため、施設や業務のさらなる充実を図り、多くの皆様方のご来館を願うものであります。

今後とも関係各位のなご一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

盛岡市遺跡の学び館

館長 武石 幸久